No.625
2026.10.19

KINZOKU DANCHI NEWS Since1974

金属団地ニュース



岐阜県金属工業団地協同組合

9月度月例会開催

9月14日(月)組合研修センターにて月例会を開催し、株式会社eiicon アライアンス推進グループ田中耕平様をお招きして『「自社だけ」を超える、他社共創のオープンイノベーション』について講演をしていただきました。

講演では、他社のアイデアや技術力との協業による新たな価値創出の取り組みが、事例を交えて紹介されました。さらに、次世代経営層の育成についても、他社人材との共創を通じて構想力や推進力を磨く仕組みが解説されました。

社長就任挨拶



株式会社 中川製作所

岡　野　宗　治

この度、令和8年6月29日付にて、代表取締役に就任いたしました。

今期は75期と節目の大事な年に先代より会社の舵取りを引き継ぐこととなり責任を重く感じているところです。弊社は創業より、都市ガス用ガス栓のメーカーとして歩んでまいりました。先代、諸先輩の意思を引き継ぎ、品質第一 、技術の研鑽のもと、お客様が安心して都市ガスをご使用できる製品を供給できるよう、日々、精進してまいります。

金属団地の皆様には、日頃より大変お世話になり感謝申し上げます。今後も変わらぬお付き合い、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

組合員親睦旅行開催

令和8年度組合員親睦(65周年記念)旅行を、9月3日(木)～5日(土)の2泊3日の日程で開催し、沖縄県へ18名で行ってまいりました。2日目に観光組とゴルフ組に分かれて行動しましたので、それぞれの様子を交えながら、2泊3日の沖縄旅行を振り返りたいと思います。

■ 初日

今回の旅行では、台風の進路が少し気がかりでしたが、無事にセントレアを出発。飛行機は予定どおり那覇空港へ向かいました。

那覇空港に到着すると、外はあいにくの雨。猛烈な湿気と強い雨に、慌てて傘を購入する人も。台風の影響を感じながら、まずはバスで昼食会場へ向かいました。しばらくすると雨も止み、国際通りに面した「首里天楼(すいてんろう)」へ。ここでは沖縄御膳をいただき、まずは腹ごしらえを済ませました。昼食後は、沖縄観光の定番ともいえる首里城へ。

首里城では、守礼門の前で記念撮影を行いました。ここでも台風の影響があり、強風対策として、「守禮之邦(しゅれいのくに)」と書かれた扁額(へんがく)が外されており、普段とは少し違った守礼門を見ることとなりました。

首里城といえば、2019年10月に発生した火災も忘れることができません。火災では正殿をはじめとする主要な建物が焼失しましたが、その後、復元に向けた工事が進められてきました。現在も正殿の復元工事が進められており、2026年11月23日から一般公開される予定となっています。火災から約7年。復興の歩みを身近に感じる貴重な機会となりました。首里城からホテルへ移動、夕食までは自由時間となり、それぞれゆっくりと過ごしました。

そして、いよいよ初日の夕食です。こちらも国際通りに面した「島唄と地料理 とぅばらーま」へ。ここでは沖縄料理を存分に堪能しました。「これ、お昼にも食べたな」という品もありつつ、心地よい三線の音色とともに、沖縄民謡のライブも楽しみました。

ライブが進むにつれて店内は大いに盛り上がり、最後にはお客さんをステージに呼び込み、一緒に踊る場面も。そんな中、我々一行からも勇気ある一名がステージへ。見事な(？)踊りを披露し、会場をさらに盛り上げてくれました。私たちもその場の一体感に包まれ、手をひらひらさせながらカチャーシーを楽しみました。沖縄らしい陽気な雰囲気を存分に味わい、楽しい旅のスタートとなりました。

■ 2日目　ゴルフ組

ゴルフ組8人はホテルを6時30分に出発、ホテルから用意された朝食をバスの中で頬張り、到着した先は過去に日本プロゴルフ選手権やソニー日本女子プロゴルフ選手権を開催した名門ゴルフ場『かねひで喜瀬カントリークラブ』です。スタートまで1時間以上あったため、スタート時間を40分位早めてもらいました。当日は雨が予想されましたが、スタート時には奇跡的に青空です。とは言え、当日の沖縄周辺では台風24号が迷走しており、風も結構吹いています。ティーグランドで「ナイスショット！」と声を掛けられ、ボールの所に行ってみると飛距離180ヤードってことも幾度となくあったそう、これも台風の影響か異常な蒸し暑さに徐々に体力を奪われていった、そんなプレーの1日となりました。

優勝は小栗さん、同組の三島さんも3位と各種賞をいくつか持っていくあたり、経験豊富なおふたりからはまだまだ学ぶべきことはたくさんありそうです。

スループレーだったので、汗を洗い流した後に遅めの昼食となりました。冷房の効いたレストランは快適そのもの、気分も宴会のような楽しいものであったことは、写真からお察しください。

■ 2日目　観光組

天気は快晴。観光組はジャングリア沖縄へ向け出発し、途中、伊芸SAで休憩をはさみながらも、10時前に到着しました。

昨年7月にオープンしたばかりの新しいテーマパークということもあり、旅行の計画段階ではネットの口コミなど、さまざまな評価がありましたが、「せっかくだから行ってみよう」「雰囲気を楽しめれば」といった気持ちで訪れました。

いざ園内に入ってみると、思っていた以上に楽しめるアトラクションや演出がありました。平日のためか園内は比較的空いており、待ち時間も長くて20分ほど。待ち時間なしで楽しめるものも多く、スムーズに園内を回ることができました。

途中、アトラクションに乗る直前に雨が降り出し、そのまま濡れながら楽しむことも。雨に備えて置き傘がいたるところに用意されているなど、細かな配慮もありがたく感じました。抽選によるアト

ラクションには残念ながらハズレてしまったものの、気がつけば予定していた時間いっぱいまで満喫しました。

万座毛では、遊歩道を歩きながら、青い海と象の鼻のような断崖絶壁を眺め、雄大な景色を楽しみました。施設内では、お土産を買ったり、サーターアンダギーやブルーシールのアイスを味わったりしました。万座毛の観光を終え、この日の観光組の行程も終了。その後はホテルへ戻り、それぞれ自由に夕食を楽しむなど、思い思いに過ごしました。

■ 3日目

最終日はおきなわワールドへ。まずは玉泉洞へ向かいました。鍾乳洞は温度がほぼ一定で、一般的には涼しいイメージがありますが、沖縄の玉泉洞は少し違い、思っていたよりも蒸し暑さを感じました。そんな中、鍾乳洞の中を歩きながら、約30万年もの年月をかけて形成された鍾乳石などを見て回りました。

その後は、熱帯フルーツ園や琉球ガラスなどの工芸品、琉球王国を再現した町並みなどを見学しました。さらに、迫力のあるエイサーショーも観ました。太鼓を使ったダイナミックな踊りで、沖縄の伝統文化を感じました。

また、ハブとマングースのショーもあり、かつては実際にハブとマングースを戦わせていましたが、2000年の動物愛護法改正などをきっかけに、現在は水泳大会へと変わったそうです。ステージには二つの筒状の水槽が用意され、それぞれの水槽をハブとマングースが泳ぎ、どちらが先にゴールするかを競います。昔の決闘とは対照的な、ほのぼのとしたショーでした。

おきなわワールドを後にし、空港へ。たくさんのお土産をキャリーバッグに詰め込み、帰路につきました。

今回の旅行では、沖縄ならではの食や自然を楽しみ、首里城や琉球王国の町並み、伝統工芸、エイサーなどを通して、沖縄の歴史や文化にも触れました。また、移動中にはバスガイドさんから沖縄の暮らしや方言、地元ならではの話を聞くなど、観光だけでは知ることのできない沖縄の一面にも触れることができました。

2日目は観光組とゴルフ組に分かれて、それぞれの行程を楽しみました。普段とは違う場所での旅行を通して、参加者同士の親睦を深める機会にもなりました。

Okinawa 9/3

参加された皆さん、本当にお疲れさまでした。台風の心配もありましたが、無事に旅を終えることができ、思い出深い旅行となりました。



















9/4 Golf







9/4 JUNGLIA/Manzamo













9/5 Okinawa World HABU SNAKE SHOW











消防団訓練参加

9月29日金属団地消防団の消防訓練に青年部が参加させて頂きました。青年部からは2名消防団メンバーとして活動していますが、金属団地消防団というものが一体どんな活動をされているのか、その他の青年部メンバーには分からない人も多く、知ってみたいということから今回初めて活動にご一緒させて頂いたという経緯です。

当日は、あいにくの天気でしたが秋田隊長の指示のもと、MTK西側防火水槽を使用し、川に向かって放水活動。青年部メンバーも放水の筒先操作を行わせて頂きましたが、初めて行う放水威力の反動に圧倒されながら何とか狙ったところへ放水。簡単そうに見えて中々できないものだと良く分かりました。その後、片づけを行い、宮永本部長の総括後解散をしました。日頃の消防団の活動内容や今まで気にもしていなかった防火水槽等々、学ばせて頂き、その活動に感謝しなくてはならないことを強く思いました。ただ、消防団の方が出動しなくていいように、火災の発生をさせないよう更なる努力が必要であると感じました。





『ネタ探し』という不自然な日常

また「ふいご」の依頼が来た。最近どうも依頼のペースが早い気がして編集部に尋ねてみたが、「そんなことないですよ」とすげなく返された。ただ単に、時が過ぎ去るのが早いだけらしい。それだけ充実した毎日を送っている……のか？まぁ、そういうことにしておこう。いずれにしても、この依頼が来るたびに私の頭の中には見事なまでの「空白」が広がる。そう、今回も驚くほどネタがない。

そもそも論として、他の執筆者たちは普段どうやって記事のネタを仕入れているのだろうか。毎日の生活の中で「お、これは次の『ふいご』のネタになるぞ！」などとアンテナを張り巡らせて生きているのだろうか。申し訳ないが、私にそんな器用な芸当はできない。朝起きて仕事をして、飯を食べて寝る。余程の重大事項でない限り、その中で起きる大半の出来事は、脳の省エネモードによって右から左へスルスルと流れていく。昨日食べた昼飯のメニューすら怪しいのに、一週間前の日常の気づきなど覚えているはずがないのだ。ましてや数カ月の間のことなんてのはもってのほかだ。

だが、締め切りという現実からは逃げられない。そこで今回は開き直って、「日々の活動の中で、どうやって日常をネタ化していくべきか」という、ネタ探しの技術そのものを考えてみることにした。そもそも「日常をネタ化する」とはどういう作業なのだろうか。ドラマチックな事件を起こす必要はないはずだ。道端で事件に遭遇したり、突然海外旅行に行ったりしなくても、面白い記事を書く人は書く。ということは、違いは「起きた出来事の大きさ」ではなく「拾い上げる視点」にあるはずだ。

第一に考えられるのは、「違和感を放置しないこと」。日常の中には、よく考えると変なことが溢れている。例えば、なぜか家に3本もある同じようなドライバー、買い置きしたことを忘れてまた買ってきた醤油、あるいは自分の謎のこだわり。これらは普段「まあいいか」とスルーしてしまうが、立ち止まって「なぜこうなった？」と掘り下げてみると、急に人間味のあるエピソードに化ける。と思う。

第二に、「失敗や落胆をコンテンツ化すること」だ。人間、成功体験は自慢話になりがちで読まれてもあまり面白くないが、ちょっとした失敗や「思ってたのと違う」という落胆は、最高の調味料になる。前回の私の「嫁のチクチククリームで肌を甘やかそうとしたら撃沈した話」もまさにそれだ。自分が損をした瞬間こそ、文章のネタとしては得をしているのかもしれない。

第三に、「自分の当たり前と、世間の当たり前のズレ」を観察すること。自分ではごく普通だと思っていた習慣が、他人に話すと「えっ、それおかしくない？」と言われることがある。この「ズレ」こそがネタの宝庫だ。年齢を重ねるにつれて自分の価値観が固定化されがちだが、あえて自分の行動を第三者目線でツッコミを入れてみる。

こうして「ネタ化のノウハウ」をいくつか考えてみたわけだが、結局のところ一番大事なのは「日常をちょっと面白がってみる心の余裕」なのだろうと思う。特別な出来事を待つのではなく、いつも通りの退屈な日常や自分のうっかりした行動に対して、「まあ、ネタになるからいいか」と笑い飛ばせるかどうか。ネタ探しとは、記憶力の問題ではなく、機嫌よく生きるための視点の問題なのかもしれない。

……と、それらしい考察を述べてみたが、いかがだろうか。鋭い読者の皆様ならお気づきだろう。私は今、「ネタがない」という事実そのものを捏ね回し、必死にこの記事を書き上げたということを。日常のネタ化という実験は、とりあえず今回の原稿を埋めるという形で、見事に成功したと言っておこう。

さて、次回の依頼に向けて、今日から少しだけ日常を観察してみようか……いや、たぶん明日には忘れている。

芽花椰菜

我が家の最高権力者と、僕の休日

株式会社秋田鉄工
秋 田 隼 輔

最近は、朝起きてからの仕事があります。

植物への水やりです。



我が家の最高権力者（妻）からの命令には逆らえないのです。
でも、案外やってみると、植物たちの元気具合を確認しながら水をあげるのはなかなか楽しく、今では朝のいい日課になっています。
朝の光を浴びながら植物に水をあげていると、自分自身も少し目が覚めて、気持ちよく一日をスタートできる気がします。

この日の予定はゴルフです。

僕には、ゴルフの日には欠かせないルーティーンがあります。
朝はおにぎり2個とコーヒー。
そして、必ずスタートの1時間前にはゴルフ場に着いて練習します。
練習をしていると、大体、金属団地コソ練部・部長のMゾーさんがやってきます。そこで挨拶という名のちょっかいをかける。
ここまでが、僕のゴルフの日のルーティーンです。



ゴルフも終わり、夕方からは嫁様とご飯を食べて、スタバに行きます。
ゴルフに行かせていただいたお返しです。
……とはいえ、結局は僕が嫁様に相手をしてもらっているんだと思います。



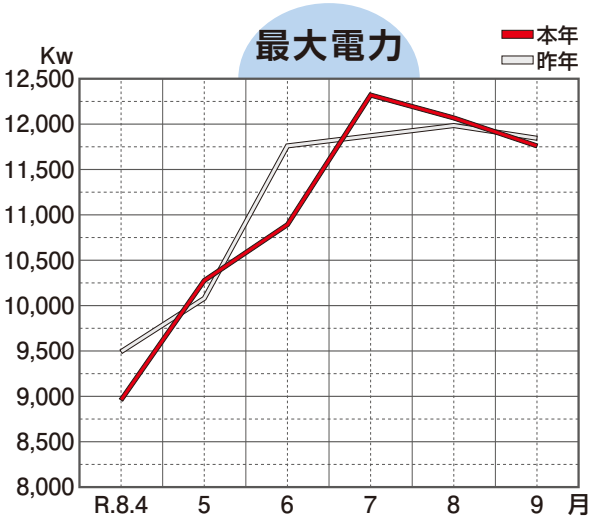
植物に水をあげて、ゴルフをして、最後は嫁様とご飯を食べてスタバへ。

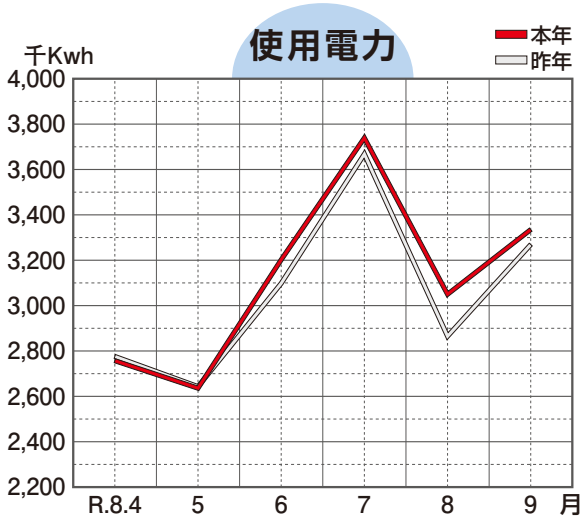
これが僕の休日です。

29歳の休日とは思えないほど、朝から晩まで平和な一日です。

お知らせ

令和８年９月分電力使用状況





SFの世界!? 核融合発電ってなに？（前編）

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』『機動戦士ガンダム』に登場する小型核融合炉。かつて核融合は、未来を描くSF作品の中だけに存在する夢のような技術だった。しかし今、その「未来」が少しずつ現実に近づいている。

1. 核融合発電とは

核融合発電とは、太陽と同じ「核融合反応」を利用して発電する技術です。

水素の仲間である重水素や三重水素を超高温のプラズマ状態にし、原子核同士を融合させることでエネルギーを取り出します。

核融合反応で、生成された原子核の質量がわずかに小さくなります。この「失われた質量」に相当する分が、アインシュタインの式 $E=mc^2$ に従って、大きなエネルギーとして現れます。そして、そのエネルギーを熱として取り出し、蒸気をつくってタービンを回すことで発電します。

2. 原子力発電（核分裂）との違い

現在の原子力発電で利用されているのは「核分裂」です。

重い原子核を分裂させてエネルギーを取り出す核分裂に対し、核融合は軽い原子核同士を融合させる、いわば正反対の仕組みです。

行 事 予 定

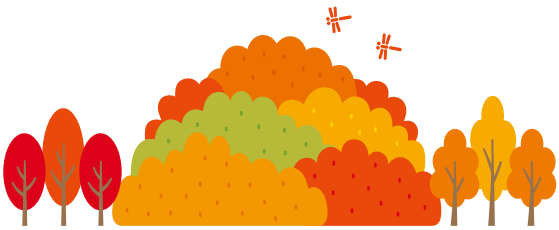
2026 10 October

16	金	青年部情報交換会
17	土	『組合休日』
18	日	金属団地全停電（8時30分～17時前後）
19	月	月例会（12：00～） 役員会（13：30～）
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	代表者会議（18：00～）
24	土	『組合休日』
25	日	
26	月	編集委員会
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	『組合休日』

2026 11 November

1	日	
2	月	
3	火	『文化の日』 『組合休日』
4	水	金融委員会 正副常任会
5	木	インフルエンザ予防接種（1日目）
6	金	
7	土	『組合休日』
8	日	
9	月	金山奉賛会
10	火	
11	水	インフルエンザ予防接種（2日目）
12	木	
13	金	安全衛生工場見学・反省会
14	土	『組合休日』
15	日	





■ 11月の行事予定

11月16日月　臨時総会・役員会
11月19日木　中小企業団体全国大会（熊本県）
11月28日土　団地G（青年部合同）

■ 9月度金属団地ゴルフ会

9月26日土　関ケ原カントリークラブ
優勝　山村容弘（山村製作所）　2位　永田 保（マルエイ）　3位　秋田隼輔（秋田鉄工）

G-MECCA

Gifu Metal Engineering Community Cooperative Association

https://www.g-mecca.jp





